



「あすなろ」

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください。

第一志望を決める秋へ

2学年主任 樋口 真理子

夏休みが終わり、平常授業が始まりました。この夏は、オープンキャンパスに参加した人、部活動や資格取得に打ち込んだ人、海外研修に参加した人など、それぞれが普段とは違う経験を積むことができたのではないのでしょうか。

さて、ここで学年として「12月までに第一志望を決定する」を後期の目標の一つにします。9月には第2回進路希望調査、11月には三者懇談があります。これらを通して自分の進路について考えを深め、最終的に12月までに進学先を決定してほしいと思います。そして春休みには、「第一志望宣言書」の作成に取り組みます。その際には、第一志望についての志望理由もまとめてもらいます。志望理由を考えるために、マイナビの『志望理由の組み立て方』という冊子を活用し、冊子についているワークブックの最終ページに自分の考えをまとめる予定です。

当然ですが、進学先が定まっていなければ志望理由を書くことはできません。また、「なんとなくここかな」という状態では、説得力のある理由も生まれません。「なぜその大学・学部・学科で学びたいのか」を、自分の言葉で説明できるところまで考えてほしいと思います。「まだやりたいことが見つからない」という人もいるでしょう。しかし、やりたいことは待っていても見つかるものではありません。見つけようと行動する中で、少しずつ形になっていくものです。大学について調べる。先生や保護者の話を聞く。ニュースや社会の動きに目を向ける。オープンキャンパスに参加する。さまざまな人や場所に出会う。そうした経験の積み重ねが、自分の興味や将来につながっていきます。この夏、オープンキャンパスや海外研修などを通して、新しい世界に触れた人もいるでしょう。そのときに感じたことや考えたことは、進路を考える上で大切な材料です。ぜひ、その経験を生かしてください。すでに第一志望が決まっている人は、さらに一歩進んでみましょう。同じ系統の大学を比較すると、それぞれの特色や違いが見えてきます。同じ名前の学科でも、学ぶ内容や力を入れている分野は大学によって異なります。また、大学がある地域の環境やサークル活動、留学制度などを調べてみるのもよいでしょう。比較することで、「なぜこの大学なのか」という理由はさらに明確になります。

9月から12月までの4か月は、自分の将来と本気で向き合う期間です。この夏に蒔いた種を、この秋に育て、進路という形でしっかりと根をはるものにしてほしい。9月の主な行事予定

9月 2日(水) まで 学習強化週間

3日(木)～8日(火) 第2回定期試験

9日(水) 生徒休業日

11日(金) ④答案返却

12日(土) 土曜講座、理数コース山梨大学生命環境学部訪問(AM 授業)

15日(火) 保護者対象進路研修会(17:00～)

16日(水) 登校時マナーアップ運動

17日(木) ▲カセット

18日(金) 第2回バイク通学者説明会(放課後)

24日(木) 運動会

25日(金) 第2回進路希望調査

26日(土) 土曜活用授業、駿台記述模試(希望者)

29日(火) 運動会予備日

30日(水) ⑦納め式、新生徒会役員認証式・生徒会役員交代式、前期終業式





【2学年リレー通信】

今は叶えられなくても

2年5組 担任 望月 京佳

この夏、私は夢の1つを叶えた。大きな夢だった。それは、イギリスに行くことだ。

「世界を知りたい」という思いで英語を学んでいるが、海外には1度しか行ったことがなかった。もちろん、世界を知る手段は「行く」以外にもあるが、やはり行くことでしか知りえないことがある。特に、大学でイギリス文化を専攻していたのにイギリスに行ったことがない、ということが大きなコンプレックスだった。何度、「コロナ禍で留学も海外旅行もできなかったんですよ～」と話したことか。それを口にするたびに、心が曇った。いや、雨が降った。コロナ禍、大学での勉強や就職後の仕事、円安の中での資金づくり、家族の健康など、言い訳はいくらでも並べることができた。

皆さんは、他者の話を聞いたり、SNSを見たりして、「いいな～」と思った経験はあるだろうか。

「いいな～」には「私にもそれができるかもしれない」という前向きな側面と「私はなんでできていないんだろう」という後ろ向きな側面があると思う。どちらの側面も考えれば考えるほど、心に負荷がかかり、疲れてしまう。「いいな～」に疲れた私は、「いつか、ね。今はいいや」と、「いいな～」を遠ざけ、感じていないかのようにこの6年間生活してきた。

「いつか」のチャンスは突然訪れた。夏季休業中の予定を組み、今年度はゆとりがあることに気づいた。それが7月10日だった。資金面に関しても、2年間働いてきたことで1週間ほどイギリスに行く貯金はある。また、この9月にイギリスの大学院を卒業する予定の大学時代の友人に会いに行くという理由もあった。あとは、作成に13日かかるパスポートを手に入れ、審査に最大3日かかるETA（電子渡航認証）を取得すればイギリスに行くことができる。1つでも遅れれば即終了のタイトな日程で準備を進め、無事にイギリスの土を踏むことができた。

この世の中、気持ちではどうにもできないこと、環境的・物理的に無理なことはたくさんある。特に、学生にできることは限られていると感じることが多々あった。それでも、「これをやってみたい」という気持ちは、たとえ心の奥にしまい込んでしまうことがあったとしても、持ち続けてほしい。「いつか」必ずそれを叶えられる状況が巡ってくる。そして、その状況が巡ってきた時、「やってみたい」という気持ちが行動となる。

今回行動を起こせたのは、上記の通り、時間・お金・友だちという条件がそろった上で、心の奥で持ち続けていた「イギリスに行きたい」という気持ちがあったからである。実を言うと、生徒の皆さんのおかげでもある。ベサニー先生の授業での世界遺産についてのプレゼンテーションが、心の奥にしまい込んだ「世界を知りたい」という気持ちを再び意識させてくれたのである。“You should visit ～”のフレーズは禁止であったが、実際にこの目で見たいという気持ちにしてくれた。イギリスでは、ストーンヘンジやロンドン塔を見ることができた。そんなつもりではなかったかもしれないが、皆さんの取り組みが私の夢を叶えてくれた。ありがとう。

